



9月のくもの子の会だより

令和元年 8.25

今年の夏は短かったような気がするけど、
みなさんはいかがだったでしょうか...
どんなに着ても、秋の気配を感じると、あー夏も
終わりか...と夏ならではのあじわいまた来年までおあずけの
ような気持ちで、すー、と残惜しいなとも思うけど、
さて、秋、気持ちいい空気、おいしい食べ物~でまた味わおう。



「先生なら、何というだろう」と大人の高さに自分を
背伸びさせて、考えなおしてみることが、思考(=いら)
の客観性をもたせることになるのです。大人になって
からもそうだと思います。お互いに愚痴を言いあうだけ
ではなくて、しかるべき人とちゃんと相談して方向性を
出すということが大事なわけですよ。

6月号からのせてきた「子どもとの話し方原則」のつづきで、最終章です~

これまで述べてきたことをひとこと (わかる子、わからない子、
精神科医からのアドバイス)
いうと、大人はおせっかいな指導者ではなくて、いい聞き手にな
ってほしいということですね。今、子どもたちに聞き手が不足して
いると思います。アンケートなどで「君は悩み事があるとき、
だれに相談しますか」と聞くと、「友だち」という答えが来て
まっています。(中略)



このように大人と相談できるというのも生きるためには
一つの必要な力だと思います。
そのためには大人がいい聞き手になっていないと、「この
問題はちよと先生と相談してみよう」などとは思いつか
ないわけですよ。それで友だちとしゃべっていて、何か
相談しているような錯覚におちいる。そんなことが今は
多いような気がします。だから私たち大人はいい聞き手
になることが大事だと思います。それが子どもたちに
安心感を与えます。
大人に見守られているという安心のおかげで、子ども自身
が考え、その結果、自分に自信がつくのだと思います。



子どもの思考力というのは、友だちとしゃべっている
だけでは成長しないのです。それは社会経験が同じ
レベルですから、限界がもともとあります。同じレベルで
愚痴を言いあうという関係であって、そこで相談して
方向性がしっかり出てくるというようなことは少ないです。
大事なときには大人と相談することができなければ
いけないと思います。実際に、大人と相談しなくても、

◎ 改めて思うことは子ども達も、それぞれいろんな思い、考えを頭や心の中で
めぐらせ、かかえています。大人は、子どもの思いをさく前とかさかずに、自分の
考えを一方的に子どもに言っていることが多いように思いますが、子ども達
は、大人に言わず、言うチャンスもなく、また、発言しなくても言ったこと
によっての「後」の事を見通し、言わねえがまんしているということが多い
現代の子ども達の環境になつているように感じ、心苦しくもあります。
特に今、子ども達の思い、声に、寄り添い、くみとり続けることが私の役割と想っています。

(全国から患者が訪れる小児科医のだから(楽しく)健康に生きる知識・処方・工夫)

<令和元年 9月号(もりの会誌) No.2>

～自然に治った子どもの暮らし～
～普通に外で遊ぶにはメリットがそこにある～

日本の子どもの体力の低下が問題になっています。

文部科学省が行う「体力・運動能力調査」を見ると、(1985年(昭和60年)を境に子どもたちの運動能力は低下する一方で、とくに小学校高学年における「50メートル走」や「ソフトボール投げ」の結果は著しく低下しています。

勉強に関しても同じなのですが、運動しない子はほとんどいない、する子はやりすぎる傾向があり、する子としない子の二極化が進んでいるという問題もあります。部活動など運動する子どもの体力・運動能力は伸びていますが、日本の子ども全体的には体力の低下が顕著になっているのです。

子どもたちの運動能力が低下している最大の原因は、外で遊ぶ機会がなくなったことです。一昔前までは、子どもは外で遊ぶものでした。それ以外に遊ぶことがほとんどなかったのです。最近の子どもたちが外で遊ぶなくなったのは他にもたくさん理由があります。

まずは、外で遊ぶ以外にかける時間が増えたことが挙げられます。家庭内でのテレビゲームのみならず、家の外ですら、体を使わずにゲームやスマートフォン画面を見ればかきこめる子どもも珍しくなくなってきました。塾や室内で夜遅くまで習事している子どもたちもいます。

遊ぶ場所がないことも、とくに都会では深刻な問題です。スポーツなどを行ういわゆる運動施設は整備されているところが多いのですが、身近で遊べる公園や空き地がどんどん少なくなっています。

子どもの数が減り、一緒に遊ぶきょうだいや友達がいないということもあります。これも年齢が異なり、やりたいことが違うため、塾や習い事で自由な時間がなく、友達と時間が合わないということもあります。

さらに、安全面での問題もあります。子どもが犯罪に巻き込まれる事件の報道が増えたり、けがや熱中症だけでなく、虫に刺されることで気にするご両親もいます。公園ですら安全面からジャングルジムが撤去されたり、ボール投げが禁止になったり、さらには大声禁止のところまで出てきました。

事件や事故を恐れるあまりに危険をすべて取り除いてしまうのは、安全性は高まるかもしれませんが、遊びの魅力はなくなってしまいます。親は、子どもたちの安全に対して最大限の配慮をしながらも、子どもたちが自ら対処する能力を育てることも大切だと思います。

(次号に続けます)
(外で体を動かす利点について)

